

「教員のキャリア形成に果たす神奈川大学の役割」について

鈴木そよ子・他

はじめに

神奈川大学教職課程では、2007年度から神奈川大学共同研究奨助成金を得て、3年間の計画で、共同研究「教員のキャリア形成に果たす神奈川大学の役割」を進めている。

共同研究グループのメンバーは、人間科学部教授・河上婦志子、同学部教授・入江直子、同学部教授・大西勝也、同学部教授・古屋喜美代、同学部特任教授・岩澤啓子、経営学部教授・関口昌秀、同学部教授・鈴木そよ子という横浜キャンパス、湘南ひらつかキャンパスの教職課程担当教員全員である。

共同研究の申請を行った時点で明確にしていた研究目的、年度別研究計画、研究の特色及び独創的な点についての見解をここに提示する。そして、実際の調査の進行状況や概要について報告する。現時点で可能なかぎり活動報告をすることが、2008年度の的確な共同研究体制づくりに役立つと考えるからである。

質問紙調査の回答に関する分析内容は、公表できる時点でその詳細を明らかにする。ここでは、共同研究の代表者として報告できる活動内容の報告に止める。

なお、本文の「1. 研究目的」「2. 研究計画」「3. 研究の特色及び独創的な点」は共同研究のメンバー全員で作成したものであり、「4. 2007年度の調査実施概要」以下の内容は、鈴木の実任においてまとめたものである。

1. 研究目的

2009年4月施行予定の新教育職員免許法下では、10年毎の免許状更新講習の実施や、「教職実践演習（仮称）」の新設をはじめとして、大学の教員養成体制の変更が余儀なくされる。私たち教職課程担当者は、この間の教育政策が現場の声に基づくことなく進められていることに強い危惧を覚える。本共同研究は、学校現場の声をしっかり捉え、学校現場にとって意義ある教職課程を形成するために必要なものである。

本研究の特徴は、「キャリア形成」の対象として、大学在籍当時から連続的に位置づけている点であり、教員のキャリア形成における大学の役割を考えることに特化している点である。これは、共同研究者の一員である河上婦志子教授が1987年に発表した論文「教員の現職教育における大学の役割」（『神奈川大学 心理・教育研究論集』第5号）を受け継ぎ、今日の問題として展開するものである。

本研究の目的は、教師としてのキャリア形成における大学の役割を明確にすることである。現職教員が①学生時代に学習しておけばよかったと思うこと、②これまでのキャリア形成のなかで感じてきた問題、③免許状更新講習を含めた研修で、キャリアステップの視点から学びたいこと、④リカレント教育として大学で学びたいこと、の4点を軸として研究目的に迫る。

研究成果を本学における教職課程の教育実践に反映できることも本研究の大きな魅力である。

2. 研究計画

2007年度

(1) 卒業生の現職教員への質問紙調査の企画立案・実施・分析

横浜・湘南ひらつか両キャンパスの卒業生教員のうち、約800人を対象とした質問紙調査を実施し、集計・分析する。回答者の中から、インタビュー対象者を選び出す準備も進める。A3用紙両面1枚、大問8問の構成で、選択式と記述式の回答を併用する。質問紙の回答分析から、学校現場の声を把握する。また、現場教員にとって有意義な免許状更新講習のあり方を示す。

(2) 学校ボランティア活動に参加した学生の成長過程の分析

横浜キャンパスでは、近隣の小・中学校で学生がボランティア活動を継続している。ボランティア活動に参加した学生の成長過程を記録し、分析する。学生時代のボランティア体験がもつ意義をキャリア形成の視点から明確にする。

(3) 法規上の詳細な確認、資料収集

2008年度

(1) インタビュー調査の計画立案・実施・記録化・分析

2007年度の質問紙調査をもとに、関東地域中心に選び出した卒業生30名程度に対して、教職課程担当者が2人1組でインタビューを実施する。質問紙の回答にもとづき、さらに詳しく聴く。これによって、本学が果たすべき役割や中学校や高等学校との協力関係のあり方について、より具体的な情報を得る。

(2) 学校ボランティアと質問紙調査及びインタビューの分析の総合的な考察

キャリア形成の視点から大学時代、教員採用、現職教育にわたる大学の役割を明確にして、教職課程の科目展開や「教職実践演習(仮称)」の内容づくりに役立てる。

(3) 新免許法のもとでの免許状更新講習にかかわる本学ならではのプログラム開発

2009年度

(1) 共同研究のまとめ

次の4点を軸として、報告書作成の準備を進める。①教職体験を通してみたキャリア形成としての大学教育への期待 ②教員養成課程からみた学校ボランティアの意義 ③各キャリアステップにおいて教員が求める免許状更新講習のあり方 ④リカレント教育として大学に期待するもの

(2) 学校ボランティア活動体験のまとめ

学校ボランティアに継続的に参加した学生の成長過程と、教育実習以前に学校実践にかかわる意義について報告書をまとめる。

3. 研究の特色及び独創的な点

本共同研究の最大の特色は、従来の調査研究と異なって、教育活動を行う教育者としての立場から、自分たちの教育活動を振り返り、そのシステム全体の改善を目的として、共同研究を行うことにある。

先行研究を見ると、教員のキャリア形成や力量形成関係では、戦前の師範学校卒業生を対象としたものから、戦後の国立大学の教育学部卒業生を対象としたものまで多様である。コーホートとして、特定の大学の卒業生を対象とする点も目新しいものではない。質問紙調査とインタビューを併用する研究方法も一般的である。私たちは、本研究の特色や独創性を研究方法に求めているわけではない。

本共同研究のような教育改善のための共同研究の歴史は浅い。教員養成分野において、各大学の養成システム全体を見直そうとする動きが出はじめたのは、国立大学の独立行政法人化が本格化しはじめた頃からのことである。大学教員のFD(教授能力開発)が叫ばれ出すのも、そのような制度設計思想と通底したものであることは言うまでもない。本共同研究も、広い社

会的文脈で見れば、このような流れの中に位置づくものである。このような教育活動改善のための研究は、今始まったばかりであり、そういう意味では本研究の直接的先行研究というものはないと言ってよい。ここが本共同研究の特色であり独創的な点である。

質問紙調査の対象者を本学卒業生に限定することは「偏り」を示すものではない。一般的に調査対象はその調査の目的との関係で決定されるものであり、調査研究の目的に応じてまず第一段階として調査対象をカテゴリー分類し、次の段階としてそのカテゴリーごとにアトランダムな選択をするという層化二段階抽出法がとられることが多い。調査研究をする場合、ふつう一定の仮説というべきもの、あるいは素朴な疑問が存在する。その仮説を検証するために調査が行われる。仮説のないところには、そもそも調査研究しようという動機が存在しない。そのような仮説の存在を前提とするならば、むしろ最初に対象をカテゴリー分類する層化二段階抽出法の方が、調査研究にふさわしいといえる。本共同研究において調査対象者を本学卒業生教員に限定したのは、そのような意味におけるカテゴリー分類作業を行ったがゆえである。そして、これまでの研究経験においても、質問紙調査から得られる情報量は、信頼関係のある卒業生の方が多いという実績があるからである。

4. 2007年度の調査実施概要

2007年度研究計画の3点のうち、質問紙調査について経過を報告する。

- ・ 調査名
「教員のキャリア形成についての調査」
- ・ 調査対象
神奈川大学教職課程を履修して、教職に就いた現役の教員。学校種は問わない。
- ・ 調査実施方法
郵送による質問紙調査
- ・ 調査実施期間

2007年7月30日発送。回答を締め切ったのは9月7日。

- ・ 発送数、回収率、有効回答数
発送数754通、有効回答数254通。回収率は33.7%。このうち、20歳代から50歳代の237名を分析対象とした。
- ・ 調査の目的
本調査は、教員自身が教職に就いてから経験してきた研修うち、どのような研修に「役立ち感」を持ち、現在、教師としてどのような力が必要だと感じ、どのような内容と方法の研修を望んでいるかを知るための一つの方法として実施した。
- ・ 質問紙
資料1「教員のキャリア形成についての調査」質問紙
- ・ 調査の観点
質問項目に即しながら、調査の観点を具体的に述べると以下の6点になる。
 - ①教員に求められる様々な力のうち、一般論として、とくにどのような力が不足しているかと捉えているのか。(問2)
 - ②自分自身に即して、教職に就いてから行ってきた研修・研究や学習は、教師として能力形成にどの程度役立ってきたと考えているのか。(問3)
 - ③今後、研修として受けたい内容と方法はどのようなものか。(問4・問5)
 - ④研修や研究会に「出席しにくい理由」はなにか。(問6)
 - ⑤大学での研修に期待する内容や方法どのようなものか。(問7)
 - ⑥現在、自分自身が課題としていることは何か。(問8)それぞれの項目について、年齢層を問わず傾向を把握すること、年齢層別に特徴を把握すること、男女別に傾向を把握することを本調査の基本的観点とする。

資料1 「教員のキャリア形成についての調査」質問紙

教員のキャリア形成についての調査

神奈川大学・教員キャリア形成研究会

問1 回答して下さるあなたご自身について伺います。

1. 年齢・性別 _____ 歳 男性・女性 (○で囲む)
2. 卒業年 西暦 _____ 年 _____ 月卒業
3. 学部 (○で囲む) 1. 外国語学部 2. 法学部 3. 工学部
4. 経済学部 5. 経営学部 6. 理学部
4. 学科 _____
5. 免許取得教科 _____
6. 教職に就いてからの年数 _____ 年
7. 教職以外の職業経験 (なし・あり) _____ 年 職種 _____
8. 現在の雇用形態 (○で囲む) 1. 正規職員 2. 臨時任用 3. 非常勤講師
4. その他 ()
9. 現在の勤務校 (○で囲む) 1. 公立学校 2. 私立学校 3. 国立学校
4. その他 ()
10. 現在の勤務校種 (○で囲む) 1. 小学校 2. 中学校 3. 高等学校 4. 中等教育学校
5. 特別支援学校 6. その他 ()
11. 現在の担当教科 _____ / _____ /
12. 現在の校務分掌 _____ / _____ /
13. 現勤務校での役職 (○で囲む) 1. 校長 2. 教頭 3. 副校長 4. 主幹 5. 統括教諭
6. 主任 7. 主事 8. その他 ()

8月15日までにご投函下さい。

問2 次の点について、今の教員の力はどの程度不足していると思いますか。

	大いに		やや	
	不足している	不足している	不足している	十分ある
1 教科に関する専門知識	1	2	3	4
2 教材研究力	1	2	3	4
3 一般的教養	1	2	3	4
4 社会人としての常識	1	2	3	4
5 教員同士の人間関係づくり	1	2	3	4
6 保護者とのコミュニケーション力	1	2	3	4
7 生徒理解	1	2	3	4
8 教育者としての使命感	1	2	3	4
9 学級経営力	1	2	3	4
10 部活指導	1	2	3	4
11 事務処理能力	1	2	3	4

問3 教職についてから行なってきた研修・研究や学習は、自分の能力形成にどの程度役立ちましたか。

	大いに		少し		参加 していない
	役立った	役立った	役立った	役立っていない	
1 初任者研修	1	2	3	4	5
2 経年研修	1	2	3	4	5
3 教委による課題別研修	1	2	3	4	5
4 教科別研修・研究	1	2	3	4	5
5 校内研修	1	2	3	4	5
6 組合研修	1	2	3	4	5
7 民間研究会への参加	1	2	3	4	5
8 同僚との自主学習	1	2	3	4	5
9 先輩から学んだこと	1	2	3	4	5
10 個人的自主学習	1	2	3	4	5

問4 次のような研修があれば、どの程度受けたいと思いますか。

	ぜひ 受けたい	時間がとれれば 受けたい	あまり 受けたくない	まったく 受けたくない
1 教科の専門内容	1	2	3	4
2 教科の指導技術	1	2	3	4
3 I T活用法	1	2	3	4
4 カウンセリング	1	2	3	4
5 軽度発達障害 (LD, ADHD, アスペルガーなど)	1	2	3	4
6 生徒指導	1	2	3	4
7 保護者との関係づくり	1	2	3	4
8 学級経営	1	2	3	4
9 学校の管理運営	1	2	3	4
10 その他 ()				

問5 次のような方法の研修があれば、どの程度参加したいと思いますか。

	ぜひ 参加したい	時間がとれれば 参加したい	あまり 参加したくない	まったく 参加したくない
1 実践事例の検討	1	2	3	4
2 ワークショップ (ロールプレイなど)	1	2	3	4
3 専門家の講演	1	2	3	4
4 デイバート	1	2	3	4
5 I Tを使った研修	1	2	3	4
6 その他 ()				

問6 研修や研究会へ出席しにくい理由とし、次のものはどの程度当てはまりますか。

	大いに 当てはまる	当てはまる	あまり 当てはまらない	まったく 当てはまらない
1 費用がかかる	1	2	3	4
2 忙しくて時間が取れない	1	2	3	4
3 校務を休んで出張できない	1	2	3	4
4 管理職が認めてくれない	1	2	3	4
5 他の教員への気がねがある	1	2	3	4
6 開催地が遠い	1	2	3	4
7 内容が実践的でない	1	2	3	4
8 その他 ()				

問7 大学で研修する機会があれば、どのような内容や方法の研修を期待しますか。

問8 現在、あなたが課題としていることはどのようなことですか。

アンケート調査の報告書は、全員の方へ2008年にお届けいたします。

①共同研究の報告書は2010年に発行される予定です。報告書送付を希望しますか。 (はい・いいえ)

②質問紙調査の後、2008年度にインタビュー調査を予定しています。神奈川県内の方を対象として、1人1回1時間程度で行う予定です。インタビューに応じていただけますか。 (はい・いいえ)

はいと答えて下さった方には、対象者を確定した後、改めてご連絡いたします。

*①に「はい」と答えた方は、「氏名」「住所」を、②に「はい」と答えた方は、下記の全項目の記入をお願いします。

フリガナ

氏名 _____

住所 〒 _____

電話（自宅 or 携帯） _____

E-Mail（職場 or 自宅） _____

ご協力ありがとうございました。この調査で得られた情報を他の目的に使用することはありません。

5. 研究会の概要

*は他の会議で集合した際に行われた内容を示す。

第1回 2007年3月15日

・共同研究の基本方針

* 2007年4月15日

・4月14日に行われた共同研究審査のためのプレゼンテーションについての報告

第2回 2007年6月20日

・質問紙の問案の分担
・今後の研究会の予定
・質問紙紙面の基本構成

第3回 2007年6月27日

・申請書類関係

第4回 2007年7月4日

・質問紙調査のタイトル
・プリテストの計画
・封筒・質問紙作成
・発送対象者確定
・質問紙調査用専用メールアドレスの申請

第5回 2007年7月18日

・質問紙紙面の確定
・依頼文の検討
・お礼・督促を兼ねた葉書

第6回 2007年9月5日

・回答の一覧表の確認
・分析対象の限定
・単純・クロス集計の基本方針
・回答の問別分析担当者決め
・問ごとの表・グラフの作成

第7回 2007年10月30日

・問2の分析 大西 勝也
・問3の分析 河上 婦志子
・問4・5の分析 関口 昌秀
・問6の分析 岩澤 啓子
・ボランティア活動報告
入江 直子・古屋 喜美代
・集計報告添え書きの検討

* 2007年11月28日

・質問紙調査依頼者全員に送付する「教員のキャリア形成についての調査 集計結果報告 (問1～問6のうち数字による回答部分)」をメンバー全員に渡す。

* 2007年12月19日

・第7回研究会で作成を依頼された114表をメンバー全員に渡す。

第8回 2008年1月30日

・教員のライフステージと研修

岩澤 啓子

・パネルディスカッションの企画
・ボランティア活動の報告

第9回 2008年2月16日

神奈川大学教育研究交流会

テーマ：教員のキャリア形成を考える：卒業生からの提言

第1部

報告—卒業生に対する質問紙調査の中間報告と教員免許状更新講習—

鈴木そよ子

第2部

パネルディスカッション：教師としての学びと成長

横浜市立いずみ野中学校 平井 克明先生

藤沢市立片瀬中学校 小嶋 文典先生

川崎市立有馬中学校 林 高士先生

藤枝市立大洲小学校 森本真里子先生

向上高等学校 小泉真紗子先生

第10回 2008年2月28・29日 (合宿)

・調査分析の検討
・インタビューの計画
・2007年度のまとめ
・2008年度の研究計画
・問4・5の29表をメンバー全員に渡す。

6. 共同研究作業内容と担当者

①質問紙回答のデータ分析

・調査概要・意図・方法・・・鈴木 そよ子
・問1・・・・・・・・・・・・・・・・鈴木 そよ子

- ・問2 大西 勝也
- ・問3 河上 婦志子
- ・問4 関口 昌秀
- ・問5 関口 昌秀
- ・問6 岩澤 啓子
- ・問7 鈴木 そよ子
- ・問8 河上 婦志子

共同研究メンバー全員

②資料収集・学校ボランティア活動関係の分担案

- ・教員養成関係の新動向に関する資料収集とリストづくり 入江 直子
- ・学校ボランティア活動に参加した学生の成長過程の分析 入江 直子
古屋 喜美代

7. 質問紙調査用紙の作成・プログラミング・入力・諸作業担当者

*共同研究のための諸作業は主に湘南ひらつかキャンパスで担当した。

(1) 質問紙作成・入力

- ①質問紙内容作成 . . . 共同研究メンバー全員
- ②質問紙回答プログラミング . . . 鈴木 明
- ③質問紙回答入力
(問1入力) 小池 美佑紀
(問1チェック) 室井 健太郎
(問1-11, 12, 13チェック) . . . 鈴木 そよ子
(問2~6入力) 小池 美佑紀
(問2~6チェック)
小池 美佑紀・田口 友樹
(問7入力)
小池 美佑紀・田口 友樹
(問7チェック)
田口 友樹・鈴木 そよ子
(問8入力) 田口 友樹
(問8チェック) 鈴木 そよ子
入力後届いた回答, 無効の回答と番号を入れ替えたもの (103, 217, 241, 252~254) の入力・チェック 鈴木 そよ子
- ④入力データの集計 鈴木 明
- ⑤依頼文の作成・検討 河上 婦志子

(2) お礼と督促の葉書

- ①文案と入力 鈴木 そよ子

8. 質問紙・葉書の発送, 質問紙の受け取り・入力準備作業

(1) 質問紙発送関係作業

(2007. 7. 18~2007. 7. 29)

- ①住所シール
野上 展子 (横浜キャンパス)
二宮 アキ子 (湘南ひらつかキャンパス)
- ②封筒印刷 石川 里奈
- ③質問紙印刷・2つ折 鈴木 そよ子
- ④封筒宛名シール・切手貼り
田口 友樹・山口 竜也
- ⑤返信用封筒2つ折 田口 友樹
- ⑥発送物の封入 田口 友樹
室井 健太郎・鈴木 そよ子
- ⑦発送 (質問紙7月29日) . . . 鈴木 そよ子

(2) 受け取り・入力準備作業

(2007. 7. 30~2007. 9. 7)

- ①返信封筒の住所チェック . . . 二宮 アキ子
- ②ナンバリング・受け取り印 . . . 田口 友樹
- ③質問紙回答のコピー 田口 友樹・
小池 美佑紀・室井 健太郎

(3) お礼と督促のはがき発送関係作業

(2007. 8. 17~2007. 8. 20)

- ①印刷 鈴木 そよ子
- ②住所シール貼り 田口 友樹
- ③住所変更者等チェック 二宮 アキ子
- ④発送 (葉書8月20日) 鈴木 そよ子

9. 集計結果報告作成, 印刷, 発送作業

(2007. 11. 10~2007. 11. 29)

*質問紙調査を依頼した全員に問1~問6のうち数字による回答部分の単純集計のグラフを送付した。

(1) 集計報告作成

- ①表紙・添え書き文作成・検討・岩澤 啓子
共同研究メンバー全員

- ②グラフ作成 鈴木 明
- (2) 印刷, 綴じ
- ① 印刷
- 室井健太郎・二宮アキ子・鈴木そよ子
- ②綴じ 室井 健太郎・石川 里奈・
- 杉本 真弓・山崎 由美子
- (3) 封入, 発送
- ①封筒印刷 鈴木 そよ子
- ②住所ラベル貼り, 封入
- 室井 健太郎・杉本 真弓
- ③発送 (11月30日) 鈴木 そよ子

10. 表・グラフの作成

(2007. 8. 25~2008. 1. 6)

*研究会で回答分析のために必要となった表
やグラフの作成 鈴木 明

- (1) 問1
 - ・年齢×性別 3表
 - ・勤務校種×性別 2表
 - ・年齢×勤務校種 1表
- (2) 問2
 - ・年齢×問2 1~11表
 - ・性別×問2 1~11表
 - ・勤務校種×問2 1~11表
- (3) 問3
 - ・年齢×問3
 - 1-1 初任者研修 (年代) 表
 - 1-2 初任者研修 (正規職員) 表
 - 2~10表
 - ・性別×問3 1~10表
 - ・勤務校種×問3 1~10表
- (4) 問4・5
 - ・年齢×問4 1~9表
 - ・年齢×問5 1~5表
 - ・勤務校種×問4 1~9表
 - ・勤務校種×問5 1~5表
 - ・役職×問4 1~9表
 - ・役職×問5 1~5表
 - (役職の1~3を1つにまとめ, 校長・

- 教頭・副校長の欄とする)
- (役職の4~7を1つにまとめ, 主幹・
- 統括教諭・主任・主事の欄とする)
- (役職の8=1~7以外と一般教諭, 選
- 択肢9=未記入は除く)
- ・問4の「ぜひ受りたい」×問5
- 1~5表
- ・問5の「ぜひ参加したい」×問4
- 1~9表
- (5) 問5の「4 ディベート」に関して
 - ・中学校の教科別
 - (社会・理科・数学・英語) 4表
 - ・高等学校の教科別
 - (社会・理科・数学・英語) 4表
- *教科は最初に記載している教科名を採用し
- ている

- (6) 問6
 - ・年齢×問6 1~7表
 - ・性別×問6 1~7表
 - ・勤務校種×問6 1~7表

- (7) グラフ
 - *番号は質問項目の番号を示す。集計結果報
 - 告として質問紙調査依頼者全員に送付し
 - た。

「問1 回答して下さるあなたご自身につい
て伺います。」

*数字選択による回答のみをグラフ化

- ・1-1-1 年齢別
- ・1-1-2 性別
- ・1-3 学部
- ・1-8 現在の雇用形態
- ・1-9 現在の勤務校
- ・1-10 在の勤務校種
- ・1-13 現在の勤務校での役職

「問2 次の点について, 今の教員の力はど
の程度不足していると思いますか。」の各項
目のグラフ

「問3 教職についてから行なってきた研修・研究や学習は、自分の能力形成にどの程度役立ちましたか。」の項目のグラフ

「問4 次のような研修があれば、どの程度受けたいと思いますか。」の項目のグラフ

「問5 次のような方法の研修があれば、どの程度参加したいと思いますか。」の各項目のグラフ

「問6 研修や研究会へ参加しにくい理由として、次のものはどの程度あてはまりますか。」の各項目のグラフ

おわりに

2007年9月から質問紙調査の回答を巡る検討を始めた。11月、12月は急な校務のために研究会を延期せざるを得なかったが、10月の研究会の議論に基づき、項目ごとの検討を進めている。項目内のクロス集計と同時に、項目間のクロス集計にもとづく分析や、分析の根拠となる関連情報の調査も進めている。

質問紙調査の回答の分析は、2007年度内にまとめ、2008年度に学会発表あるいは誌面において公表されることになる。ボランティア活動における学生の成長分析についても、誌面において報告されることになる。

教員免許更新制が2009年度から施行される。そして、大学が開設主体となって免許状更新講習を実施することになる。現役の先生方にとって有益なものとするための手がかりを本共同研究から得て、キャリア形成と研修の関係のなかに、講習を位置づけたい。2008年度は、2007年度の分析結果を一つの仮説として、インタビューを中心とした研究を進める予定である。